



<特集：招待講演・教育講演（第33回年次学術集会より）>

序文（巻頭言）：「招待講演・教育講演」

野村 創

Preface: Invited lecture & Educational lectures

Hajime Nomura

Summary In March 2023, as Coronavirus disease 2019 (COVID-19) restrictions eased, the Society of Analytical Bio-Science held its 33rd Annual Scientific Meeting, led by Chairman Hironori Ikeda, with the theme “New Developments in Clinical Testing - Looking Ahead the Post-Corona Era.” This academic meeting featured plans to reconsider the appropriate operation of clinical tests in the medical field and the practical actions of clinical laboratory technicians necessary to overcome the difficulties caused by COVID-19. One invited lecture and two educational lectures featured in this special issue, offering suggestions for medical practice and social life from different perspectives, with a focus on the post-COVID-19 era. We gained knowledge about high-sensitivity detection, risk management of infectious diseases, and health maintenance through fermented foods, which provided an opportunity to consider wisdom and actions applicable in the post-COVID-19 era.

Key words: High-sensitivity detection, Risk management, Fermented foods, Post-corona era

COVID-19による制約が縮小しつつあった2023年3月に「臨床検査の新たな展開～afterコロナ時代を見据えて～」をメインテーマに第33回生物試料分析科学会年次学術集会（会長長池田弘典）が開催された。本集会は、COVID-19による閉塞感を乗り越え、臨床検査の運用や臨床検査技師の行動について再考する機会を提供できればと様々な企画が準備された。本号特集では、「afterコロナ」時代に注目していただきたい内容の招待講演と教育講演を紹介する。

まず、招待講演として、株式会社同仁化学研

究所の石山宗孝先生に「検査技術の【過去から現在、そして今後の展開】」と題し、生体試料分析に欠かせない発色色素や標識試薬の開発の変遷や実際のご苦労について、ご紹介いただいた。臨床検査に必要な特異性や迅速性等の特性が試薬開発にも求められ、そのための高感度免疫分析法や電子メディエーター等の活用が提示された。

教育講演 I として、新渡戸文化短期大学の宮地勇人先生には「with コロナ時代の人材育成」についてご講演いただいた。COVID-19パンデミックにより未知の感染症に対する危機管理体

九州保健福祉大学 生命医科学部 生命医科学科
〒882-8508 宮崎県延岡市吉野町1714-1

連絡先：野村 創

九州保健福祉大学 生命医科学部 生命医科学科

Tel: +81-982-23-5723

E-mail: h-nomura@phoenix.ac.jp

Kyushu University of Health and Welfare, Department of Medical Science, Faculty of Medical Bioscience, 1714-1 Yoshino-cho, Nobeoka, Miyazaki, 882-8508, Japan

制の脆弱性が明らかになり、その対応に必要な要員や試薬確保、精度担保などが医療遂行における重要な課題となった。そこで感染症危機管理における臨床検査室での人材育成や精度保障などに対する国レベルでの総合的な検討について解説いただいた。

次いで教育講演Ⅱでは、佐賀大学農学部の北垣浩志先生に「発酵食品（麴）に関する研究」についてご講演いただいた。日本の伝統的発酵食品の基盤で日本独自の素材である麴は、20世紀前後に成立した近代科学による安定的な利用を経て、1980年代以降、健康食品としても注目

されるようになった。今回は麴の持つ整腸作用、免疫活性化に並ぶ機能性物質（グリコシルセラミド）を介した作用に関する研究成果をご紹介いただいた。

本号特集で取り上げた3つの論文が異なった観点から医療現場や社会生活に対する様々な示唆を提示していただけるものと期待される。各論文から有意義な情報を得て、「afterコロナ」時代に活かせる知恵や行動について色々と思考する発端となれば幸いである。

本論文内容に関連する著者の利益相反：なし